

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回吉川市総合振興計画審議会
開 催 日 時	令和3年8月6日(金) 午前・午後 6時00分から 午前・午後 7時45分まで
開 催 場 所	吉川市役所202・203会議室
出席委員(者)氏名	加藤克明委員、齋藤詔治委員、小野潔委員、雪田きよみ委員、 林美希委員、小林照男委員、岡田早苗委員、田村正夫委員、 戸張加代子委員、本間寛隆委員、廣瀬正子委員、菊地純松委員、 石阪督規委員、宮地さつき委員、高崎康男委員、 飯田勝委員、高橋健太郎委員、中島新太郎委員、 石井亮英委員、木原十三男委員、星座正俊委員、佐藤梨帆委員
欠席委員(者)氏名	斎藤和雄委員、秋元智子委員、青柳雄大委員
担当課職員職氏名	政策室長 浅水明彦 政策室副室長兼政策室主幹 岡崎久詩 政策室調整幹 野尻宗一 政策室企画担当副主幹 油川誠 政策室企画担当副主幹 相川美佐子 政策室企画担当主任 林希 政策室企画担当主任 平塚雅史 政策室企画担当主事 野口陽子 都市整備部副部長兼都市計画課長 中村喜光 都市整備部都市計画課都市計画担当副主幹 宮田匡寿
会議次第と会議の公開又は非公開の別	[次第] 1 開 会 2 委員の委嘱 3 あいさつ 4 議事 (1) 基本構想原案に係るパブリック・コメントについて(報告) (2) 基本構想原案に係る答申について 5 その他 6 閉 会 [公開・非公開] 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	1名
会議資料の名称	・次第 ・第6次吉川市総合振興計画基本構想(原案)に係るパブリック・コメントについて[資料1] ・吉川市総合振興計画審議会 想定スケジュール[資料2]

	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想（原案） ・吉川市総合振興計画審議会委員名簿 [参考資料1] ・人口推計 [参考資料2] ・将来人口推計区域図
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	戸張加代子委員、星座正俊委員
その他の必要事項	なし
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
石阪会長	<p>1 開会 それでは、第3回吉川市総合振興計画審議会を開催させていただきます。</p> <p>2 委員の委嘱 吉川市商工会長の交代に伴い田村正夫氏に委嘱 三輪野江自治連合会長の交代に伴い飯田勝氏に委嘱</p> <p>3 あいさつ 緊急事態宣言発令中であるため、なるべく時間を短縮し開催したいと考えている。 本日はパブリック・コメントで寄せられた意見を踏まえて再度皆様からご意見をいただきたい。その上で、まちづくりの方向性を示す基本構想について取りまとめ、最終的に審議会の意見として答申する予定である。忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
石阪会長	<p>4 議事 議事録の署名委員として戸張加代子委員、星座正俊委員を選任。 傍聴要領に基づき、会議を公開とする。</p>
事務局	<p>(1) 基本構想原案に係るパブリック・コメントについて 資料1に基づき説明。</p>
石阪会長	<p>新規委員も出席しているため、改めて確認させていただくが、現時点では基本計画ではなく構想の段階である。 基本構想原案の前半は現状分析、後半には構想があり、目標や将来の土地利用について記載されている。</p>

	<p>これについてパブリック・コメントにより市民の方からご意見を募集したところ、8名からのご意見があった。</p> <p>事務局からの説明のとおり、道路やゾーニング、IC周辺事業など具体的な内容が多く、基本計画に書き込むような内容がかなり含まれている。これらについては構想の中に盛り込むことは難しいため、議論は次のプロセスで踏み込んでいくことになるだろう。</p> <p>8番の意見などは、基本構想にある程度特化した内容だと思う。「3分の2は現状認識に留まり」といった厳しい意見もあるが、グリーンリカバリーなどのユニークな発想は、今後、構想や計画の中で具体化されていくアイデアかと思う。</p> <p>まずはパブリック・コメントの意見に関連する形で委員の皆さんからご質問やご意見を伺いたい。</p> <p>《質疑・意見》</p> <p>1番の意見は、さくら通り隣を流れる木売落のことに限定し、折角の桜が台無しだということである。それに対する回答は、「豊かな水と緑に恵まれた自然環境を保全する」という方向性」や、「水辺空間を形成する“水辺レクリエーション地域”や“水辺交流拠点”を位置付け」としているが、この方の意見は、桜並木の隣の木売落を整備することによりまちの価値を高めるべきというものであるため、この回答では不十分ではないかと強く思う。</p> <p>また、市の3分の1の面積を占める農地の保全、活用、米づくりの歴史などを踏まえた農業の発展という視点が全体的に必要ではないかと思う。</p> <p>8番の意見にもあるが、コロナ禍の中では、自助・共助では補いきれない状況があると思う。第6次総合振興計画はコロナ後の社会をどう作っていくのかというものになるため、自助・共助・公助ではなく、どんな公助を行っていくのかを中心に考えなくてはいけないと思う。</p>
雪田委員	
石阪会長	<p>最後の意見は、自助が先にきてしまうイメージがあるが、みんなと一緒にという協働の視点であり、言葉はともかく配慮はあると思う。自助・共助・公助全て大事かもしれないが事務局は如何か。</p>
事務局	<p>自助・共助・公助については、基本構想ということで最大限に発揮するよう一括りで方向性を示している。様々な取組は基本計画で示し、公助はもちろん自助・共助のところと一緒にできることを計画の中に出していけたらと考えている。</p>
石阪会長	<p>計画の中で公が果たすべき役割をきっちり示していくことになると思う。</p>
事務局	<p>木売落の件については、担当課に確認しており、環境整備も含めた検討事項だと考えている。ただし、基本構想の中ではあくまで説明までとさせていただき、基本計画若しくは実施計画</p>

	<p>の中で検討していきたいと考えている。</p> <p>農業についても同様で、まちづくりの目標の中では、「地域特性を活かした産業振興により、地域の元気を創出し活気と魅力あふれるまちづくりをめざします」と方向性を示しているだけであるが、米づくりや次世代に繋がる農業なども含めて検討していきたいと考えている。</p>
石阪会長	<p>具体的な川の汚染や農業の問題、これらは基本計画の中で議論されることもあると思うが、今回は構想ということでそれらを文章の中に書き込むことは難しい。計画の段階でもう一度議論していただきたい。</p>
戸張委員	<p>2番の意見の将来人口について、76,000人となっているが、現在のコロナ禍の状況を考慮すると強気の数字だと思う。</p>
事務局	<p>76,000人を推計として出した上に、様々な施策を展開することによって77,000人を将来人口と設定している。高い目標であると認識はしているが、吉川美南駅周辺の開発が東口を含め進行中であるため、それらを踏まえて目標設定している。</p>
石阪会長	<p>もっと少ない方が現実的ということか。</p>
戸張委員	<p>全体的に人口は減少傾向にあり、美南も建物自体は大体決まってきたと思う。東口もまだ事業中であり、さらに世界的にコロナが蔓延していることなどを考慮するとそこまで伸びないと思う。</p>
石阪会長	<p>人口について、あまり減らしてしまうと逆に増やす気がないのかということにもなってしまう。10年間の中で現状維持というのは現実的だと思うが、人口増ということは市としても施策が必要になるため、色々な施策を打つということの意志と受け止めてよろしいか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。東口については計画人口を4,500人と設定しており、事業が着実に進展することで目標に近づくものだと考えている。</p>
高崎委員	<p>6番と8番の意見について、吉川市には沢山の農地がありますと書かれているが、確かに農地は沢山あるが農業従事者は殆どいない。農地を守るのではなく農家を守らなくてはいけないと思うが、それが具体的に示されていない。</p> <p>農家の高齢化や後継者不足などの実態が分かっていない中で基本構想はどうかと思う。</p> <p>私の所にも農地を何とかしてほしいという相談が数多く寄せられている。このままでは吉川市の農家は崩壊してしまう。</p> <p>春日部、杉戸、幸手と比べても農地が一番多いのは吉川市である。首都圏に近い立地条件を生かし、農地の有効利用を考えてほしい。縦横断の道路が出来ればスポーツ施設や企業誘致など活用の幅が広がると思う。</p>

事務局	<p>また、6番の東埼玉テクノポリス周辺については、企業の拡張意向もあるようである。吉川市も積極的に県や国に働きかけ、農家が土地を持っていてよかったと思えるように動いてほしい。</p> <p>今回は農地に対してのご意見であったため、農地に対する回答が中心になってしまっているが、委員のご意見のとおり農家への支援が必要だと考えている。</p> <p>その中で、吉川市で農業をすることへの魅力づくりや担い手の確保に取り組んでいかなければいけないと考えている。</p> <p>また、東埼玉テクノポリスの拡張も含め、農地以外の活用ということであるが、こちらはかなり厳しい制度がある。国や県との協議をこれまでも重ね、吉川美南駅東口の開発に繋がっているところもあるが、一朝一夕で進む取組ではないと認識している。</p>
石阪会長	<p>県や国に働きかけ、様々な利用を模索するというのの一つと、農業については基本計画の中で具体的な支援策が出てくると思う。ブランディングや6次産業化を含めて、他の自治体を見ても農業を守るというよりは攻めの農業にするという様々な計画があり、それらを参考に吉川の農業を一つの業としてしっかり位置付けていただきたい。</p>
高崎委員	<p>米価がどんどん安くなっており、米づくりに魅力がない。その点も共有して今後の取組を一緒に考えてほしい。</p>
齋藤委員	<p>8名全ての意見について、皆さん素晴らしくそれぞれの感覚で邪心がなく素直に論じていると思う。</p> <p>これらの意見を全部できればありがたいが、とても10年ではできないと思う。</p> <p>吉川には大きな壁があり、農地の問題は何十年も全然変わっておらず、農家は農地を守って潰されている。</p> <p>17ページに財政状況が書いてあるが、この財政では、素晴らしい総合振興計画をつくっても、とても実現できる状況ではない。この状況を打破するためには、都市計画が重要だと考えている。</p> <p>三郷市は吉川市と面積がさほど変わらないが、市街化区域と市街化調整区域の割合は50：50である。</p> <p>隣の越谷市も市街化区域は47%、春日部市も面積は越谷市と変わらないが、市街化区域そのものは33%で残りは農地となっている。これに対し吉川市は23%しか市街化区域がない。</p> <p>東京近郊で広大な土地があるにも関わらず、お金がないことが課題である。解決策としては、広大な3,166haの有効活用しかない。</p> <p>吉川市が豊かにならなくては農家を守ることはできない。市民一体となって県や国に吉川市の現状を訴え、大きな壁を整理することが構想実現のためには必要だということを述べさせていただく。</p>

石阪会長	ご意見として伺っておく。県や市との連携、周りに働きかけることは非常に大事になってくるため、計画で進めるべきところは強く進めていただきたい。
木原委員	3番の意見1に関連するが、第1回審議会での資料3に、「市民参画における吉川市の目指すまちの姿についてのご意見の整理・抽出」があったが、そのキーワードを全部並べたような形で将来都市像、まちづくりの基本理念が示されている。ぜひその資料を基本構想に入れてほしい。
事務局	市民参画でいただいたご意見は重要であると認識しているため、資料としてお示しすることは考えていたが、最終的な基本構想の冊子構成などについては、今後検討させていただく。
木原委員	ぜひお願いしたい。
石阪会長	ここで一旦休憩に入らせていただきます。
	(2) 基本構想原案に係る答申について
石阪会長	<p>これまで市民の方からのパブリック・コメントでのご意見並びにそれに関する皆さんのご意見を伺い、事務局からも説明をいただいた。</p> <p>これらを踏まえて基本構想原案について、今後10年間のまちづくりの方向性が妥当なのかどうか、改めて構想について最終的に皆さんからご意見をいただきたい。</p> <p>皆さんからご意見をいただきたいのは主に24ページ以降である。</p> <p>将来都市像は、「幸せつながる みんなのまち よしかわ」であり、まちづくりの基本理念(1)～(3)、特に言葉では「幸福実感」、「共に生き、共に創る」共創といった考え方が盛り込まれている。</p> <p>25ページでは、「まちづくりの目標」5つが示されている。</p> <p>これは部門ごとに、こども・学び、健康・福祉、生活・産業、都市・環境、パートナーシップということで、特にユニークなのは最後の“パートナーシップ部門”である。他の自治体ではあまり見られず、「多様性を認め合い、パートナーシップで共に創るまち」という文言も入っている。</p> <p>27ページは、皆さんから様々なご意見をいただいている“計画の基本フレーム”で、将来人口77,000人と設定している。これについては必ずしも遠い目標ということではなく、かなり現実的に可能なラインも含めて将来人口増を目指そうという市の意志も含まれている。</p> <p>将来都市構想においては、30ページでは分かりやすくゾーニングがされ、あくまで目安であるがこのような形で土地利用を図っていくこと。その際にはエリアや拠点といったものを設け、主要幹線道路も色分けされている。</p> <p>こちらはこれまでご議論いただいたところであるが、最終的</p>

にこれをまとめて市長へ答申する予定である。審議会として、基本構想については今日が最後の議論の場ということになるので、何かあればこの場でご意見をいただきたい。

ゾーニングでは、このエリアの細かいところはどうなんだというご意見やご質問もあるかと思うが、書き込む内容としてはここまでである。例えば個別具体的な事象や事例については、この次の基本計画のところで議論することになるため、今ある24ページ以降30ページまでを中心にご意見や変更、反映させた方がよいと思うようなものがあればご意見をいただきたい。

吉川の場合は、隣の越谷や三郷と比べ、都心から直結して人が流れてくるところではないという点が逆に魅力という考え方もあり、むしろそれを好んで吉川に住むという人が来るかもしれない。

その証拠にというのも変であるが、吉川は周辺自治体と比べて、コロナの感染者数も非常に少ない。これも吉川の強みであると思う。逆に皆さんからご意見を伺うと、吉川と都心を繋げもっと人の動きを活発にし、様々なことができればという意見もある。

ただ私は、吉川は非常に羨ましい自治体だと思っている。例えば予防接種の問題にしても、比較的スムーズに打てるという話も聞いているし、コロナだけではなく、ここで色分けしてみてもわかるように、比較的人口が南部に集中し北部は緑が多い。

不公平ではとの意見があるかもしれないが、全体のバランスを考えると人口集積地と緑のバランスが良く、こういった立地で、皆さんと一緒にこの市を盛り上げていこうと考えるならば、非常にバランスの取れた市になるのではないかと。

埼玉県の中には、そういった点でうまくいかず住民間が対立してしまったり、様々なトラブルが発生したりという自治体がある中で、吉川は比較的まとまりやすいのかなという見方も出来る。

10年間を決める基本構想であるので、こんな市になってほしい、こんな市を目指したいというご意見があればお願いしたい。

《質疑・意見》

小野委員

10ページに農林業センサスのデータを掲載しているが、平成27年までの動態しか載っていない。それ以外のデータについては直近まで掲載されている。農業の実態がきちんと把握されていないのではというご意見もあるため、農林業センサスではなく、市が持っている独自の数字を載せた方がよいのではないかと。

次に、4ページ「新型コロナウイルス感染症の教訓」の部分で、国では2月に内閣府内に孤独・孤立対策担当室を創設し、担当大臣まで置いている。

孤独・孤立は幅が広く自殺やひきこもりも含まれ、コロナ後、孤独・孤立にどう対応していくかといった視点もワードとして入れて欲しい。自助・共助・公助というところや、地域共生という社会にも全て関連してくるため、吉川市として入れて

	<p>おこななければいけないキーワードだと考える。</p>
石阪会長	<p>農林業センサスについて、直近のデータはないのか。</p>
事務局	<p>農林業センサスについては、国による5年に1回の統計で、今は速報値のみとなっている。市で把握している情報を確認しながら最終的にどういう数字が出せるか検討したい。他の分野も最終的に数値の確認はさせていただく。</p> <p>孤独・孤立についても社会潮流の中で捉えているものとしてはこうした表現となっているが、基本計画の中では孤独・孤立も取り入れながら検討していく予定である。</p> <p>表記についても併せて検討したいと考えている。</p>
石阪会長	<p>私も計画の中には孤独、孤立は入れるべきだと思っている。自殺やDVなど諸々の事情は突き詰めていくと孤独・孤立だという問題もあると言われており、今後国の支援策と相まって自治体も何らかの対応策をとっていく必要があると思うが如何か。</p>
宮地委員	<p>将来都市像の「幸せつながる みんなのまち よしかわ」に孤立を防ぐというニュアンスは含まれていると思うが、ぜひ計画に取り込んでほしい。</p>
石阪会長	<p>26ページにパートナーシップ、連携する、様々な協働を図っていくというところは、見方を変えれば孤立支援などに繋がるため、おそらく計画の中で具体的なものは出てくると思う。理念としては確実に入っているとご理解いただきたい。</p>
廣瀬委員	<p>16ページの交通網について、22ページ(3)「吉川市の取り組みの満足度」のところで「公共交通の充実」の満足度が非常に低い。市内を循環する交通を計画するにしても人が動けることを基本に考えてほしい。高齢化もどんどん進んでおり、公共交通の満足度が上がるような考え方をに入れてほしい。</p>
石阪会長	<p>26ページのまちづくりの目標4に、「道路環境や交通ネットワークの充実を図り」と記載があるため、基本計画の中で具体的にどう充実度合いを図るか検討するというところでよろしいか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。市としても市民意識調査の中で公共交通の満足度が低いことは十分把握しており、基本計画の中で取組を示し、できることから進めていきたい。</p>
木原委員	<p>30ページ将来都市構想図について、第5次、第4次の総合振興計画では、防災拠点が入っている。基本計画などで決めていくという話であるが、集中豪雨や災害の対応なども変化している中、ここに入れておく必要はないのか。</p>

事務局	<p>防災拠点については、第5次では水辺交流拠点の玉葉橋に位置付けがあった。庁内の議論の中で、防災拠点というのは一カ所に絞るべきではないという意見があり、避難所などは身近な所に拠点を置き取り組むべきという考え方のもと、今回防災拠点は設けず、現在、策定中の都市計画マスタープラン地域別構想の中で取り上げていきたいと考えている。</p>
石阪会長	<p>都市計画マスタープランである程度それを落とし込むということによろしいか。</p>
木原委員	<p>承知した。</p>
佐藤委員	<p>1点目は先ほどのバス交通網の改善の意見について賛成である。若者からすると車も免許も持っていないのが普通であるため、公共交通で水辺レクリエーションの場所などに行けるようになれば、水辺レクリエーションの認知度も上がり、変わっていくのかなと思う。</p> <p>2点目は、基本構想は誰のために作られるのか、誰が使用していくのかという質問である。まちづくりの目標の中にある「私たちは」の説明がパブリック・コメントの8番の回答で「吉川市に関わるみんな」とあった。これは吉川市が発行して市民の方が読むと想定すると、この「私たちは」はどうしても行政というイメージが付いてしまう。行政がやることの宣言と、市民に期待することを分けて書いた方が分かりやすいのではないか。</p>
石阪会長	<p>おそらく基本計画になると、具体的に市がやることと民間がやることなど、様々な主体が変わってくると思う。</p> <p>こちらはあくまで目標であるため、みんなで目指そうというメッセージということによろしいか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。基本構想は、吉川市に関わるみんなということで作成しており、基本計画では、行政が行う取組を中心に示すことになる。</p>
石阪会長	<p>バスについて、もし吉川市内を循環していたら若い人は利用するのか。今の若者は必ずしも免許を持つことはないということか。</p>
佐藤委員	<p>個人的には免許を持たない選択をする人は多いと感じている。そうなるとう移動手段として公共交通網か自転車かとなるが、自転車は気象状況に左右されるためバスがあった方がよい。またバスに乗った方が比較的安全であり、小さな子供たちにも促すことができるかと思う。</p>
石阪会長	<p>おそらく公共交通を必要だという方は、年配の方が多いと思うが、今は若い人も免許を持たない、車に乗らない方が増えているということ。そのような若い人の意見も聞いていきたい。どこを走るかも含めて広く市民の皆さんの意見も伺っていく</p>

	と、また変わってくると思うが如何か。
事務局	<p>政策室にて公共交通を担当しているが、非常にありがたいご意見だと思っている。</p> <p>公共交通網の充実については、高齢者の方の免許返納や通勤通学をメインに考えていたが、今いただいたご意見も参考に今後検討していきたい。</p>
廣瀬委員	<p>公共交通網に関して、外部から来られた人からバスはないのかと言われている。吉川はバスが少ないから迎えに行くことが殆どである。</p> <p>バスであればここで降りてここから歩いてみようとか色々なことが出来ると思う。そうした夢の持てるような交通網を考えてほしい。</p>
石阪会長	<p>交通に対する不便さは数字としても表れているので、こちらは大きな問題だろうと思う。</p> <p>ただ一方で、コストの問題もある。いわゆるコミュバスと言われている全国を走っているバスは、大幅な赤字を抱えており、かなりの税金を投入しないと運営が難しいという問題もある。今後、自動運転が10年後に実用化できるかというレベルまでできているが、10年間ではまだ期待できないこともあり、ぜひ公共交通の充実を基本計画で盛り込んでいただきたい。</p>
本間委員	<p>27ページ⑤産業系まちづくり地域の記述について、「多様な産業の誘導を図り、既存の農地及び集落地と産業が調和するまちづくりをめざします」としているが、こうすると既存の農地集落地に限定していると感じられる。</p> <p>実際には産業系まちづくり地域、三輪野江地区の新しいスマートインター周辺の産業振興拠点や、旭地区の東埼玉テクノポリス周辺を指していると思うが、いずれもインターが出来たり新しい拠点をつくったり広げていくことで、おそらくこれからも人の流れが増えてきたり、そこに対して来る人もいると思う。</p> <p>「既存の」と縛らず、もう少し広い意味で農地及び集落地と産業が調和するまちというような形にしておいた方が、10年先もっと楽しいまちが出来そうだなと感じる。</p> <p>パブリック・コメントにもあったが、旭、三輪野江小学校存続の危機ではないかという意見もあるため、単純に拠点、既存の集落だけではなく、新しい人が拠点をベースに人が集まるといったこともあってもよいのかなと思う。</p>
石阪会長	<p>「既存の」というのが農地にかかっているのか集落地にかかっているのかでかなり変わってくる。事務局は如何か。</p>
事務局	<p>農地及び集落地両方に対しであるが、審議会でご意見をいただければ、「既存の」を削除してもよいと考える。</p>

石阪会長	特に限定しているわけではないということであれば、配慮していただきたい。
高崎委員	農業のデータについて、農業調査は年1回行われているはずである。最新データを載せてほしい。令和2年のものがあるはずなのでその数値を見て皆さんに状況を認識していただきたい。
石阪会長	農林業センサスは国が行っている調査で、これが5年に1回ということであった。仮に最新データを反映できるようであれば入れ込んでいただきたい。
事務局	農林業センサスの速報値は令和2年のものが出ているようで、今後確定値がお示しできるようであれば反映を検討したい。また、農業委員会で実施している調査もあるが、これは経年を示す農業就業人口などといった細かいデータが出せない可能性があるため、分析の中で調査の結果が使えるか確認したい。
石阪会長	どちらの調査を使うかというよりも、新しいデータを反映させてほしいというご指摘だと思う。他のデータも含め、なるべく最新のデータを入れるよう要望したい。
宮地委員	基本構想は将来ビジョンのことだと思うが、大事な3章以降が文字のみでイメージしにくい。 先ほどの意見のように、誰が読むのかということ。市民の方に読んでいただかなくては意味がないので、市民の方が手に取りやすい見せ方の工夫を検討してほしい。 また、先ほどのバスの話だが、SDGsを掲げている以上、環境面にも配慮していく必要がある。例えば電動スクーター、シェアスクーターみたいなものを取り入れ活用することで吉川の緑、自然の豊かさなどを肌で感じてもらえるような仕組みがあるとよい。バスだけではなく自由に吉川を移動できる仕組みを考えてほしい。
石阪会長	自治体ではレンタサイクルに予算を割き、自転車を奨励しているところもある。確かにSDGsの視点に立つとガソリン車というのは問題があるという意見もある。自転車に乗れない方も当然いるため、用途によってどういう公共交通を使うか、あるいは交通網を整備するのかというのが課題だと思う。こちらはまた基本計画の中で検討していきたい。 構成やレイアウトについてはこれが最終版なのか。
事務局	公共交通の具体的な取組については、基本計画の中で手段をどこまで書けるのか検討させていただき、場合によっては実施計画などで取り入れていく可能性もある。 構成やレイアウトについては、これが最終版ということではなく、計画を冊子にする際に検討させていただく。また最初のタイミングでは分かりやすい概要版を市民の皆様にお示しする

<p>石阪会長</p> <p>委員</p> <p>石阪会長</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>ことを検討している。その際には、できるだけカラーで写真なども取り入れながらイメージしやすいものをと考えている。</p> <p>予定の時間を超過しているため、もし皆さんからご意見があれば別途、事務局の方へ寄せていただきたい。</p> <p>今回の会全体を通じ、原案自体を大幅に見直すというご意見はなかったため、概ね基本構想原案については妥当なものであるということで、その後の微調整等々については会長副会長に一任する形で答申させていただいてよろしいか。</p> <p>異議なし</p> <p>必要であれば我々で修正もしくは付帯意見を付し、市長に答申させていただきたい。</p> <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議日程について 資料2に基づき説明。 ・補足 参考資料2について説明。 <p>6 閉会</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和3年8月25日</p> <p>署名委員 星座 正俊（自署） 署名委員 戸張 加代子（自署）</p>	